

1. 学習の到達目標

三年間の総仕上げとして一年間を位置づけ、読解力と記述力の完成を目指す。

2. 使用教科書 『探求現代文 B』(桐原書店)

3. 年間指導計画

時 期	学習内容(単元・教材)	学 習 の ね ら い
前 期	4月 (評)『現代日本の開化』	・明治期の日本の世相を読み取り、日本の近代化の問題点を理解する。
	5月 (小)『舞姫』	・エリート的心情に迫り、近代という時代や人間の生き方を考える。
	6月 (評)『オブジェとイマージュ』 (前期中間考査)	・「オブジェ」と「イマージュ」の意味を把握し、絵画が人々に訴える力の本質に気づく。
	(評)『市民社会化する家族』	・人間や家族が「社会化」した現状に対する筆者の主張を読み取り、家族の社会化に抗する希望を考察する。
	7月 (評)『普遍性』	・現代における普遍性と多様性の関係を理解し、現代人の目指すべき自然観・社会観について考察する。
後 期	8月 (小)『檸檬』	・作者の生命力が鋭敏な感受性によって表出される様を鑑賞し、表現の可能性について考察する。
	9月 (評)『詩人のふるさと』 (前期期末考査)	・言葉と人間の関わりについて、「詩人」という存在を通して考え、理解する。
	10月 (評) 『ファンタジーワールドの誕生』	・「異文化理解」の底にある偏見や誤解に気づき、文化の融合の意味を考える。
	11月 (後期中間考査)	
	12月 問題演習 (センター試験対策)	
1月 問題演習 (大学入試個別対策)		
2月		

4. 評価規準と方法

評価規準 評論 文章を論理的に読み、問いに沿う形で解答を記述することができる。

また、問題意識を持ちながら自分の意見を記述することができる。

小説 作者の感じ方や登場人物の心情を表現に即して理解し、自分の経験をふまえたり想像をめぐらしながら、意見をまとめることができる。

評価方法 定期考査、課題提出物の内容と提出状況、学習活動に臨む姿勢等についてそれぞれを得点化して評価する。